



チャイムが鳴った
サークル活動だ
輝く瞳 ほころぶ顔
教室が 運動場が
活気づく
はずむ声

囲碁・イラスト、手品
等 等 等
学年を超越した三十二の集団
教え合い 励まし合い
技能を磨く

喚声が 笑い声が
この九十分に
絶えることがない

昭和54年10月1日
編集・発行
岡崎市教育委員会



(「どこへ動かそうかな」……チェスサークルー甲山中)

— 教育随想 —

信心と

いうこと

藤吉 慈海

昨年のくれ、私は岡崎市の名刹大樹寺の住職になり、京都と岡崎の間を行ったり来たりして、何とか責任を果たしている。京都も宗教都市で、世界中でも京都のような街はすくない。京都の民家は寺院と神社の敷地の間にあって、寺院と神社の敷地の方が民間の総面積より広いと聞いたが、今はそれでもあるまいと思う。岡崎も歴史都市で、いろいろの遺跡があるようだが、私はまだよく知らない。私のいる大樹寺だけでも、いろいろの歴史的事件と結びついていて、研究すればするほどおもしろい。それにしても三河の人の信心深さもまた有名である。三河辯は乱暴で品位はないが、心は美しく私のように佐賀県に生まれ育った者には親しみ深い。鍋島論語といわれる「葉隠」の作者山本常朝は三河出身の堪然和尚の教えを受けているから、葉隠武士の血の



中には三河武士に通ずる精神が流れているように思う。

足助出身の鈴木正三のことは、案外当地方の人には知られていないが、この人は偉い人で、禅と念仏を実践した日本仏教史上大きな位置を占める人である。正三の墓は足助町恩真寺の裏に静かに建っているが、正三は今日の日本人の宗教心をどう見ているのであろうか。正三は家康、秀忠、家光の時代に生きたが、その語録は今日高く評価され、アメリカの宗教学者やブラジルの日本研究家にも注目されている。

正三は批判的精神の強い人で、自分の実践している坐禅や念仏についても深く反省している。今日の日本人は宗教ばなれしているが、幸に岡崎地方の人は信心深いようである。しかし自分の信心が本当に正しいものか、それともいい加減な

ものかについて反省している人が幾いいるであらうか。大抵の人が、神も仏も一つにして、何となく信心深い人が多いのである。これは日本人の寛容性でよい面でもあるが、自分の信心の内容をよく反省してみることも大切だと思う。

正三は念仏にもいろいろある。その人の氣質にしたがって、いろいろの念仏のしかたがあるが、結局は自分の職業や生活に生かされる念仏でなければならぬという。百姓は一銭一銭の念仏と言って、一銭打ちおろすことに力強く南無阿弥陀仏と唱えて、自分の煩惱をたち切れと言っている。わかりやすく言えば自分の職場が仏道修行の道場だと言うのである。

本当に自分の職業を仏道修行だと思つて、職場で悟を開こうと思つて工夫をしたら、どうなるであらうか。家庭の奥さんが台所や市場のショッピングを仏道修行の場所だと思つて仕事をしたらどうなるであらうか。手早く静かに心をこめて朝食の準備ができたなら、別にお茶の稽古をする必要もなくなるであらう。

信心深い人だと言われる人が、日常生活のあり方を忘れて、お寺やお宮にお詣りするだけで、何の批判精神もなく、非合理的なことを、信じたりすることが宗教的だと考えているようであるが、困ったものである。自分の信心がどんなものか、すこし反省してみる必要がある。三河地方の雑信について考えさせられるこの頃である。

(大樹寺住職)



海外に触れ

人に触れ

市川敏雄

防空演習下のソウル空港へ着陸していたことを聞かされて、啞然とした。全ての人は退避である。また、夜は烽火管制に出くわして、いよいよ韓国ソウルの地に在ることを思い知らされた。九時頃だろうかサイレンを合図にソウルの街の灯は消え、車は止まり人は潜み、全くの暗黒街と化した。その闇を装甲車や戦車が暴進する形相は異様に神経を高ぶらせた。かつての苦い体験を、今ここで再び身を以て知ろうとは思つてもみなかったことである。ますます「韓半島平和統一」を心から願わずにはいられなかった。バスガイドの安潤沫さんは忘れられない。日本語が極めて達者で歴史に通じ、豊富な話題で終始楽しませてくれた。真剣な語り聞かせが印象的であったが、そこからあふれ出る安さんの人味に触れて心の通いをみた。安さんという人柄に余りに惚れ込んでか、日本から身に着けて行つた自分の帽子を心をこめて、プレゼントして来た女の先生もあつたとか。

ふるさとの山河



細川小より北斗台団地と村積山を望む

世紀末に、大連、物部守屋の二男、真福が真福寺を建て、奥の院として奥山田町の村積山の頂上に村積大明神を祭った。

鎌倉時代になると、当時、細川の領主であった細川義季が、村積大明神を細川氏の守護神として祭り、以後の領主であった子孫もこれをうやまつた。そして、

細川町にも神様を移して、古村積神社(里宮)に祭った。【参河国額田郡神社誌】

なお、村積大明神は、安産の守護神として名高く、古村積神社の方は、水田の神様といわれている。

江戸時代になると、村積神社は奥殿藩の崇敬が厚く、奥山田村(当時)は、年貢米のうち五石八斗を村積大明神灯明料として免ぜられた。また、藩主が社殿の修復、石灯籠の寄進、初穂の奉献をした。

山頂の村積神社のすぐ横に、毒石と呼ばれる古岩がある。この岩は、昔、那須野が原(栃木県那須町)の殺生石の破片が飛んが飛んで来たものであると伝えられ、この岩にさわると必ず病気になるといわれ、里人は決して近づかないという。

奥山田町から、徒歩二十分ほどで山頂に達することができる。

山頂から西の方を見下ろすと、矢作川が南北に、帯のようになつてゆうゆうと流れ、その両側に集落・田畑・工場などの点在する岡崎平野をパノラマのように見渡すことができる。

聖徳太子が推古天皇の摂政であつた六

最近、岡崎市は、村積山一帯を大遊園地として開発することに力を入れ、現在山頂に立派な展望台と遊歩道ができています。そして、近い将来、自動車道、キャンプ場などもつくる計画がある。

村積山麓は、以前、山林や田畑が広がっていたが、七年ほど前から住宅地として開発が進み、現在、戸数七百戸以上の北斗台団地ができています。なお、造成工事が進行中であり、数年後には、千戸以上の大団地になる計画である。

細川小学校では、体力づくりを目指し、年間数回、全校で「村積山に登る会」を実施し、合わせて、学年毎に趣向をこらしたレクリエーション活動も行っている。

(細川小 稲葉 浩之)



蟬時雨降る韓国の旅にまで
慶州の秋は深まる古墳群

(大樹寺小)

エーゲ海のこんにちは

加藤 博史

ギリシャ、そのあくまでも碧い空と海。その接点にある白い神殿。そんな神話の世界に入りこんだのに、今、思い出すのはなんといつても人とのふれあいである。

玄関先でレースを編む女性を見た時、「この感じだ。」とばかりに、記念撮影を申し込んだ。

すると突然、大声で、「エレーナ、マルガリータ...」と叫んだ。夜八時というのに何が始まったかと、一瞬ドキッとした。彼女たち近所の女性を集めてしまった。彼女たちの集まりの明るく賑やかなことといったらこの上ない。旅行者と大笑いしながら、ひとときを過ごせる人柄というものを、日頃の私の生活では考えることができない。

掃りがけ、楽しさのお礼と親愛の情をこめ、少し悪のりをして、頬をすり寄せて挨拶をしようとした。「あの若い美人としたいなあ。」と思つたが、少し遠慮をしておばさんに近づいた。すると、結婚指輪を見せながら、「だめよ。主人に悪いから。」と断わられてしまった。「でも、あの子なら結婚してはいないからいいよ。」と美人を指さした。ヤッター!!

(六ツ美中)

親善都市訪問②

福山市をたずねて

八月二十一日・二十二日



姉妹都市同士の理解を深め、友情のきずなを強めようと、国際児童年を記念して、去る二十一日、二十二日、福山市を訪れた。

福山市と岡崎市は、藩主水野勝成と徳川家康とがいとこ同士といううえ、ともに大正五年七月一日に市制を施行し、戦災から復興したなど都市形態が似ているということもあって、昭和四十六年十一月に姉妹都市の縁組を結んだ。

以後、四十七年に井田小学校が輛小（児童数七五〇）と、五十年には城北中学校が同名の城北中とそれぞれ姉妹校となり、交流を重ねてきた。

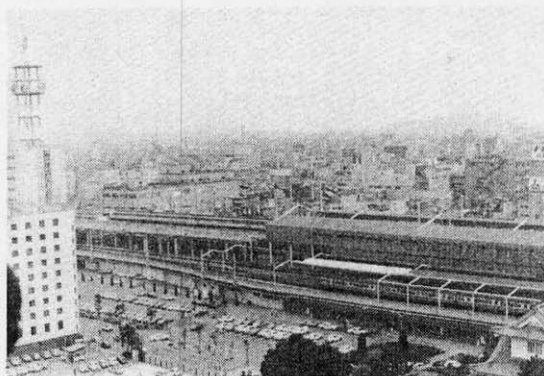
権田連尺小学校長を団長とする訪問団一行は、市内それぞれの小中学校の代表児童、生徒五十四人と引率の教師ら計七十二人。

早朝六時半に市役所を出発、新幹線で福山入りした。福山駅前で城北中バスバンドの奏する「オーリーブの首飾り」で迎えられた後、歓迎式に出席、岡崎から岡崎特産の卓上石灯ろうや児童生徒の図画作品九十九点を贈った。

式のあと、市内中学校吹奏楽祭を鑑賞し、小学生は輛小で、中学生は城北中でそれぞれ開かれた交流会に出席した。用意した名刺の交換をしたり、史跡や学校活動のスライドを楽しんだりした。

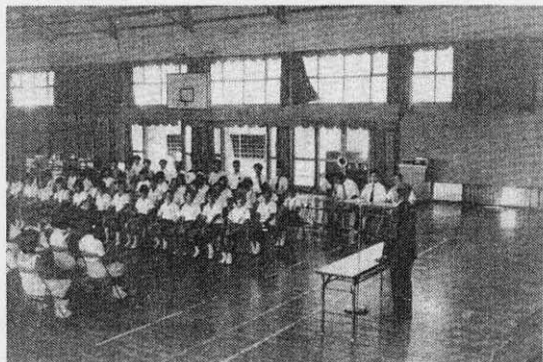
二十二日は、輛の浦の景観を展望し、草戸千軒遺跡、ばら公園、明王院、福山城など市内の主だった史跡などの見学をし、団員それぞれが二日間の意義のある体験を持ち帰った。





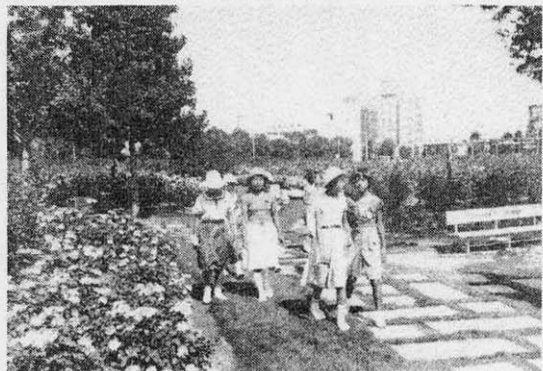
▲徳川譜代水野勝成が築いた名城・福山城。天守閣からは伸びゆく34万都市・福山の市街が一望できる。

▼出迎への輛小6年生となごやかな交流会。団員たちそれぞれが趣向をこらした名刺を交換して交流を深める。



▲温かい歓迎を受けて城北中訪問。学校生活について情報や意見を交換しあい、互いに友情を深めあう。

▼4,000本のバラが咲き乱れるばら公園。瀬戸内屈指の景勝地、鯛網でも知られる輛の浦の素晴らしさに目をみはる。



教育日々



プラス一年

六ツ美北部小
斉藤 操

「先生、『海のトリトン』やらせてよ。」

「あれは、まだむずかしいからダメ。」

「いいじゃん。やらせてよ。やるのはぼくたちだもん。」

やるのはぼくたち。一年足らずの間に、子どもたちの中にこうした意識が育ってきたことを喜びながら子どもたちの話し相手になっていました。

去年の十月、男子を主体とした二十七人編成で、吹奏楽部が誕生しました。ピカピカの楽器を前にして、まず楽器の名前を覚えることからの出発でした。ふだんは、いかにして先生をやっつけようかと、虎視眈眈としているわんぱく坊主も、楽器を

持つとガラリと変身するから不思議です。

いまだに楽譜がよくわからない子どももいます。でも、自分なりに解決策は見つけだしているのです。音は運指表と首っ引きで調べ、リズムは小太鼓に打ってもらいながら、いっしょうけんめい覚えるのです。子ども同士、真剣に教えあっている姿には、もう、こちらの口をはさむ余地はありません。ただああ、私をもっと勉強しなくては、という思いに駆られるばかりです。

子どもとはすばらしい力を秘めているものだとつくづく思います。日に日に成長するというより、一回吹くたびに伸びてい

くという感じなのです。お互いの音を聴き分ける力も、ずいぶん育ってきました。

教師ができないから、言いかければ、自分ができるいから、子どもにも無理だろうと決めてかかるのは、誤まりであるということ、この短い経験で思い知らされました。

現在、部員数三十五名、吹奏楽らしい曲にも挑戦し始めています。何も知らない私が、子どもたちのやる気に支えられて、やっとな年目を迎えることができたというのが、正直なところ

クラさんへの手紙

愛宕小 白井正壮

「クラさんが調べた玉川浄水場を取り入れた水は、砂やどろがまじっていましたね。ぼくたちも浄水場から送水場まで行って調べました。」

そこでは、きれいな水を取り入れていました。それは、小さな穴のあいた土かんをつなぎ、地下四メートルの所にうめて、しみこんできた水を取るからです。玉川は、川に流れている水をそのまま取っているのではあ

りませんか……。」

小学校四年生、テレビ社会科番組「わたしたちのくらし」に登場するクラさんへあてた児童の手紙の一部分からである。

テレビ視聴には多くの長所がある反面、一方通行に終るといふ問題もある。そこで私は、児童の視聴後の反応を手紙に書くことで、テレビ教師と児童との触れ合いを求めた。番組を親しみをもって視聴し、学習意欲の向上が見られれば、と期待したからだ。

二十八人の児童は、学期の終りに放送される番組「おたよりありがとう」でクラさんに読んでもらおうことを楽しみにして、手紙を書き続けた。

とうとうその日がやってきた。児童の関心は、朝からそのことに集まっていた。

「先生、きょう放送されると思う?」

「さあ、どうかな。」

「きっと放送されるよ。」

登校した児童は、教師のまわりを集まり、にぎやかなおしゃべりを始めた。

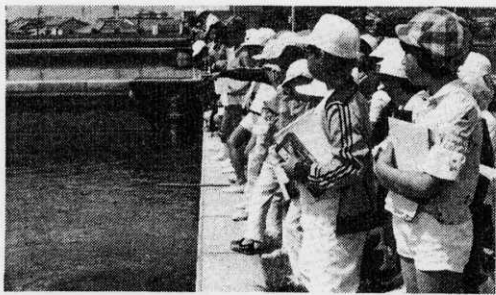
放送の時間になった。子どもたちの真剣な眼差しの前で、北海道のたよりから始まって、東北、関東と次第に東海地方に近

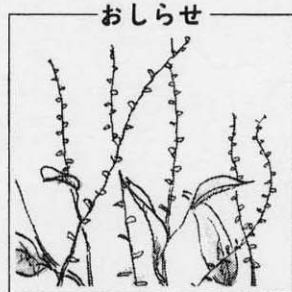
づいてきた。「岐阜県、次だ。」と全員の眼が画面に吸いつけられる。

ところが、愛知県は一校も紹介されなかった。「岡崎・愛宕小」という文字が、小さく写し出されたきりであった。それでも、子どもたちは、「出た。出た。」と大声を出して喜んでいった。「二学期は写真も送った方がいいよ。」

「B紙に書いて目立つようによいよ。」

肩すかしをくわされたことなど忘れて、クラさんに読んでもらえることを信じて、きょうもまた、クラさんへの手紙を書いている。





おしらせ

二学期の主要行事

研究発表会／保健体育的行事／その他の行事

■研究発表会

- ▽九月十四日(金) 河合中学校
- ▽九月二十五日(火) 本宿小学校
- ▽十月二日(火) 附属岡崎中学校
- ▽十月十二日(金) 南中学校
- ▽十月十九日(金) 城南小学校
- ▽十月二十四日(金) 二十六日全国へき地教育研究大会
- ▽十月三十日(火) 六ッ美中部小学校
- ▽十一月六日(火) 香山中学校
- ▽十一月十四日(水) 矢作東小学校
- ▽十二月七日(金) 細川小学校

■保健体育的行事

- ▽九月十五日(祝) 中学校新人水泳大会
- ▽九月十六日(日) 市民陸上選手権大会
- ▽十月四日(木) よい圃の児童審査会
- ▽十月四日(木) 市民体育祭

(寄贈刊行物・資料等)

◇岡崎の碑

市内の句碑(一〇二)及び歌碑(二一)を取載、一部は写真入りで紹介。A5判五七ページ

◇岡崎の文化財図録I
市内の国・県・市指定文化財(美術工芸品を除く)の全部を

写真で紹介。A4判八二ページ
以上二著ともに岡崎地方史研究会の労作。

◇残照 鈴木弥一郎著

戦後の混迷した時代に、教育行政、社会教育に尽くした筆者の回想記。折々の短歌俳句等も併載する。A5判三二二ページ

十一月(日) 中学校新人総合体育大会

▽十月二十五日(木) 健康優良児童審査会

▽十月二十八日(日) 小学校陸上競技大会

十一月八日(日) 市民マラソン大会

▽十一月三十日(金) 岡崎中学校保健大会

■その他の行事

- ▽九月二十一日(金) 英語スピーチフェスティバル
- ▽九月二十三日(日) 岡崎市吹奏楽祭
- ▽九月二十八日(火) 教育研究集会
- ▽十月十日(祝) 理科作品展
- 技術・家庭科作品展
- ▽十月二十七日(日) 岡崎まつり
- 十一月二十三日(祝) 岡崎のハイモニー
- ▽十二月二十三日(土) スウェーデン少年少女合唱団公演

■後期教育実習始まる

十月一日より後期教育実習が開始される。受け入れ校と実習生は次のとおり。

- ▽小学校
- 岡崎小 愛教大 8名、三島小 岡女短 7名、名女大 2名、東海学園短 1名、連尺小 岡女短 8名、名女大 3名、愛宕小 岡女短 5名、中京女大 1名、名女大 1名、福岡小 愛教大 10名、常磐小 名女大 2名、名自学院短 1名、矢作北小 愛教大 6名
- ▽中学校
- 南中 名女大短 2名、淑徳短 3名、愛大短 1名、中京女 2名
- 葵中 愛教大 4名、林学園短 2名、山田家政短 1名、愛大短 1名

第二回岡崎まつり

昭和五十四年度の岡崎まつりは、十月二十七日、二十八日の両日行なわれる。学校関係の参加内容は次のようである。

①吹奏楽パレード

参加校は甲山、美川、南、竜海、葵、城北、東海、岩津、矢作、六ッ美の各中学校。葵中学校のバントワラーも参加する。

②五万石おどりパレード

参加校、竜海、城北、福岡、矢作中で計六百名

③造形おかざきつ子展

展覧会期日を、岡崎まつりにあわせ、十月二十七日―二十八日とした。本年のテーマは、「世界をゆくおかざきつ子サーカス団」

④国際児童画展

岡崎まつりの二日間、太陽の城において開催する。

■理科作品展

とき 昭和五十四年十月十日
ところ 竜美丘小学校

出品 小学校六点、中学校四点(創意工夫製作物、クラブ、学級作品)

本年度は行事検討委員会の要望もあり、技術・家庭科作品展と同じ日に開催。会場も長年続いた城北会館から、新装成った竜美丘小体育館に移された。今回は、新しい試みとして、クラブや学級の共同製作の作品も展示される。

■中学校技術・家庭科作品展

とき 昭和五十四年十月十日
ところ 岡崎市体育館

テーマ 技術の習得と工夫―製作の喜びと生活の豊かさを求めて―

会場を城北会館より市体育館へ移して三回目、市内の全中学生の作品約一万点を展示。今年は基礎技術習得のための小作品も出品する。

■市民大学盛會裏に終わる

「明日の岡崎を考える」市民大学は、本年も期待どおりの講演で、極めて好評のうちに幕を閉じた。出席者も平均七百八十名もあり、皆出席者二百六十四名で、市民の熱意がうかがわれた。



極楽橋



所在地—岡崎市鴨田町宇山ノ杖

大樹寺の極楽橋ぞたのもしき法のちかひの舟はあれども

極楽橋は井田観音の三叉路を西に折れて大樹寺に至る参道を横切る、幅一間ほどのどぶ川にかかっていた石の橋である。

昔、大樹寺を出た葬式の行列は、このどぶ川を三途の川に見立てて、列をととのえなおし、西光寺の火葬場へと向った。この橋を渡れば極楽浄土。

とここで、もう一説がある。大樹寺といえは、松平・徳川家の菩提寺。その権力には手向かえるものがなかった江戸時代のこと。この橋は俗世と聖域とをむすぶかけはしであった。い

●カット

東海中

松井隆一

点

かに極悪非道な罪人でも、この橋を渡り、寺に助けを乞えば、追手の役人衆は手も足も出なくなる。ここから先は極楽浄土。こうしたいわれも今は忘れ去られて、市電が走っていた頃には確かにあったこの橋も、土地改良工事の際に瓦礫とともに土中に埋められてしまった。

平針街道のバイパスとして一部開通した大通りのグリーンベルトの中に、『極楽橋』とだけ刻んだ、真新しい小さな石柱がたっている。付近の人が昔を偲んで建てたものである。

この本を

- アメリカの女たち 中野 英子 ￥ 880
PHP研究所
- ザ・ジャパニーズ エドウィン・O・ライシャワー 文芸春秋社 ￥ 1,600
- 花々と星々と 犬養 道子 中央公論社 ￥ 380
- 気ばたらきのすずめ 塩月弥栄子 文化出版局 ￥ 880
- 和辻理論学ノート 勝部 真長 東京書籍 ￥ 980
- 滝平二郎望郷編 滝平 二郎 美術出版社 ￥ 2,000
- ことわざの論理 外山滋比古 東京書籍 ￥ 880
- 親子って何だろう なだいなだ 主婦と生活社 ￥ 880
- ちょっと日本語で話してもいいですか 国際教育振興会編 ジャテック出版 ￥ 920
- 日曜日の白い雲 (上下) 原田 康子 講談社 ￥ 890

「おねがいます。」の絶叫も消えて、街中が静かになった。そのせいか、朝夕の涼しさも増してきたように思える。児童会、生徒会の役員も改選期だが、こちらは金権候補や疑惑候補の出る幕もないし、カバン・カンバン・ジバンにモノを言わせることもない。愛校心に溢れる立候補者の健闘を祈ろう。

オアシス

「明日は明日の風が吹く。」と、何度も腰を折りそうになりつつも「明日は明日の仕事が待っているわい。」と思いついてがんばって、ついに徹夜してしまつた翌朝……。

すいみん不足のねぼけ顔、頭はガンガなつてはいるが、仕事をすませた満足感で、朝のこほんがうまかつた。

自殺する小中学生が増えているこのころであるが、つい最近、たった五才の幼稚園児が、自殺をはかつたそう。オネショをして、父親にしかたられるが恐くて、発作的にアパートの窓から飛び降りたらしい。幸い、一命はとりとめたが、最近の子どもは、何をやらかすか、本当におそろしい。

澄んだ夜空にまたたく星が美しい。夜がふければ、東の空に冬の星座オリオンも顔を出す。

恒星はまたたき、惑星はあまりまたたかないといわれるが、惑星探査機ボエジャーがとらえた木星、土星の写真は見事だった。木星の衛星の活火山もバツチリ。超遠距離通信の技術にも驚かされる。